

## 天声人語

賄賂の隠語である袖の下は、江戸川柳のからかいの対象である。〈袖の下たびかさなりてほころびる〉。賄賂が常習になつて、ぼろが出たようすだろう。

〈袖の上から出したので取りにくい〉。あまりの露骨さに拒むしかなかったか▼この手の話には食べ物もよく登場する。賄賂を「毒まんじゅう」と呼ぶのは、見返りを求められるのを毒に例えるからだ。英語にはスイートナー（甘味料）との隠語がある。そう言えば、ようかんと一緒に箱に入った現金を受け取った政治家もいた▼「金なのかコンニャクなのかは知らん」という鴻池祥肇参院議員の発言は、しばらく耳に残りそうだ。

国有地の売却問題で揺れる森友学園の籠池泰典理事長夫妻から「紙に入った物」を渡されて、すぐに返したという。果たして「毒コンニャク」だったのだろうか

▼明るみに出た記録によると、関係する役所に働きかけてほしいとの依頼が籠池氏から何度も寄せられていた。鴻池氏は働きかけはしていないと語ったが、秘書は仲介したことを認めたという。分からない点が多すぎる▼国会では土地の売却を担った財務省がまともな説明をしようとはせず、「記録は残っていない」と幹部が繰り返している。それならば担当した人たちに記憶を語ってもらわねばなるまい▼思い出すのは落語の「菊蔦問答」である。コンニャク屋が僧になりすまし、

身ぶり手ぶりで禅問答のふりをする。ぐにゃぐにゃして要領を得ない説明がこのまま続くのは、願い下げである。